

学校教育目標	「自ら学び、考えて行動する児童の育成」～認め合い、学び合い、共に育つ～
目指す学校像	世代を超えて笑顔をつなぐ大砂土小学校の伝統を深化・充実させる ～通いたい、通わせたい、勤めたいと思える学校づくり～
重点目標	1 複数の教員による個に応じたきめ細やかな授業を行う 2 「よさを認め、励ます指導」で、自己肯定感を高める。否定的な指導や暴言による指導の絶無。 3 食物アレルギー対応を確実に実施する。 4 計画的な校内研修の実施。 5 働き方改革の実現に向けた取組。

※重点目標は5つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成	(8割以上)
	B	概ね達成	(6割以上)
	C	変化の兆し	(4割以上)
	D	不十分	(4割未満)

学 校 自 己 評 価		年 度 評 価		学校運営協議会による評価				
年 度 目 標		年 度 評 価		実施日令和8年2月13日				
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等
1	<現状> ○令和7年度の全国学力・学習状況調査結果(振り返りに基づく速報値)によれば、国語はとりわけ良好、算数科及び理科は良好である。 ○日頃の学習の様子から、学習に対して真剣に取り組み、自らの課題を見出し、主体的に学習に取り組むことができる児童が多い。 <課題> ○全国学力・学習状況調査の結果において、各領域等での顕著な課題はみられないものの、算数科、理科で教間に若干の課題がある。 ○授業観察を通して、「話すこと・聞くこと」に課題が残る。	・全国学力・学習状況調査による課題克服の工夫と実践。 ・授業観察における迅速的確なアドバイスの実施。	①全国学力・学習状況調査において、教育研究所の「カウンセリング訪問」を受講し、その分析から、本校の課題を明確化及び確実に定着を図る。 ①「学びのポイント」(じしゃく)に則ったSSSPの授業研究を年間3回以上取り組み、児童の主体的な学習の機会を確保する。	○教職員・児童・保護者に対する学校評価項目、「真の学力」を育成する取組に対して肯定的な回答(よくあてはまる)の割合(24%、54%、21%)の8%向上。 ○市学習状況調査の質問項目「算数の学習が好きだ」の回答(当てはまらない)の割合(R7比較)の減少。 ○計画的な校長による授業観察による。 ○「学びのポイント」(じしゃく)を生かした授業研究を実践することができたか。	○学校評価「真の学欲の育成」に関わる肯定的な回答(よくあてはまる)の割合は、教職員・児童・保護者の順に(24%、54%、21%)の8%向上。 ○市学習状況調査の質問項目「算数の学習が好きだ」の回答割合は、昨年度より減少したが、「算数の授業がよく分かる」、「算数は将来役に立つ」の割合は、本市の平均を上回っている。 ○校長の授業観察は、毎日必ず実施した。 ○学びのポイントを意識した研究授業を学校課題研究とともに実施した。	B	○まだまだ保護者への周知が足りない。学校評価「真の学欲の育成」に関わる提言を4月の学校だよりや年度当初の懇談会にて周知。児童には、始業式やお話朝会で丁寧に説明。 ○来年度実施の「教職員による相互授業観察」を活用し、より計画的・効率的に実施する。	・教職員のアンケート結果から学力向上への取組がうかがえる。「真の学力」をどのようにみとるかが、今後の課題である。 ・校長の授業観察等の取組を次年度も継続し、子どもの学力向上、教員の資質能力の向上に努めてほしい。
2	<現状> ○「あいさつで学校が変わる(第2章)」の実践により、元気な挨拶が校内に飛び交う。 ○大規模校ゆえの誰一人取り残さない児童一人ひとりのエンパワメントの視点を持った「well-being」の確保を実践中。校長室の休み時間の開放。算数クイズの発信。 ○「大砂土小学校Solaる一む」のさらなる整備と在籍確認の徹底を実施。 <課題> ○長欠傾向人数、長欠人数の増加。	・児童一人ひとりへの細やかな教育支援・教育相談に対応した校内体制の充実 ・あいさつで学校が変わるを全教職員の共通指針として1年間実施。	①教育支援・教育相談体制の確立。おはようメーターの活用や面談の充実を図る。また、Solaる一むの出席状況を確実に把握し、避難訓練の際にも確実な人数把握の実施。 ②定期部会の集約とケース会議等の情報共有の徹底、組織的対応の徹底に基づく、支援対応を継続し充実。 ③休み時間における校長室の「算数教室」を全校に広げ、居場所作りとともに算数の楽しさを伝えていく。 ①校長による朝の挨拶運動及び朝の地域回り。 ②児童会による年3回の挨拶運動の実施。 ②教職員による朝の挨拶運動の実施。	○おはようメーターの見届けによる。Solaる一むの出席者の把握を個票で行い、ファイルにまとめておくことによる。 ○月2回以上の教育相談日の設定と必要に応じたケース会議の開催し、情報共有・組織的対応の充実を図ることができたか。 ○挨拶に関する児童・保護者・教職員のアンケート調査の肯定的評価(よく当てはまる)の割合(昨年度59%、22、67%)の8%向上。	○おはようメーターによる目視と、30日以上の子どもの長欠児童のファイル化・起案化を進めた。 ○教育相談日の設定により、SC及びSSWへの相談件数が増えた。また、必ず校長との情報共有を実施した。 ○いじめ案件による、いじめ対策委員会の開催を昨年度比「3倍」実施した。 ○業間及び昼休みには、校長室の開放を行い、児童の居場所とした。 ○挨拶に関する児童・保護者・教職員のアンケート調査の肯定的評価(よく当てはまる)の割合(R6→R7:59%→50%、22%→29%、67%→58%)。	B	○引き続き、おはようメーターによる目視と、30日以上の子どもの長欠児童のファイル化・起案化を継続。 ○本市の課題である、低学年におけるいじめを見逃さず、早期の発見・対策を組織的に実施する。 ○業間及び昼休みには、校長室の開放を行い、さらに居心地良く、相談しやすい居場所とする。 ○児童会とも連携し、「挨拶アンバサダー」の拡張、教職員の挨拶運動を継続。保護者へも依頼する。	・あいさつについての学校評価アンケートを見ると肯定的な回答の割合はもっと高い。実際の評価はもっと高くしてよい。 ・児童会のあいさつアンバサダーの取組、一人ひとりのきめ細やかな対応、スクールカウンセラーとの連携等、今年度のよい取組を次年度も継続してほしい。
3	<現状> ○学校運営協議会の熟議を通して、「地域とともにある」大砂土小学校コミュニティ・スクールを推進している。学校運営協議会の皆さんによる、本校の授業参観を実施し、御意見をいただく。 ○大砂土地区における「三世代ふれあいフェスタ」及び「ふれあい会食」に児童が参加。地域の方々との御協力のもと、「地域とともにある学校」づくりに取り組んでいる。 <課題> ○「地域とともにある学校」として、情報共有や情報発信がまだ不十分である。	・「地域とともにある学校」としての認知度を高める。 ・目指す児童の姿を地域全体で共有し、教育活動を効果的に公開する。	①学校だよりやHPを通して、学校運営協議会やSSNなどの取組を紹介し、目指す児童の姿を周知する。 ②行事や学校公開の在り方について、広く周知し、積極的に学校公開・情報公開を推進する。 ①児童会活動としての児童が主体的な挨拶運動の展開、個人面談、学期ごとの授業参観の実施、学校公開を推進。 ②校長による朝の挨拶運動を契機に、児童が気持ちよく挨拶する指導を実践。 ③チャレンジスクールや防犯活動など、様々なSSNと連携した活動に対して、より多くの保護者や地域の方々との連携し、児童が主体となる活動を推進する。	○目指す児童の姿の共有に関する保護者へのアンケート調査の肯定的評価(よく当てはまる)の割合(昨年度19%)の8%向上。 ○学校の情報公開に関する保護者へのアンケート調査の肯定的評価(よく当てはまる)の割合(昨年度42%)8%向上。 ○児童会活動と連携した防犯ボランティア会議やチャレンジスクールの意図的・計画的な実践の充実を図ることができたか。また、校長のチャレンジスクール及び土曜チャレンジスクールへの参加・協力ができたか。 ○大砂土地区の行事に児童がどの程度参加したかによる。	○目指す児童の姿の共有に関する保護者アンケート調査の肯定的評価(よく当てはまる)の割合(R6→R7:19%→21%)が2%向上。 ○学校の情報公開に関する保護者へのアンケート調査の肯定的評価(よく当てはまる)の割合(R6→R7:42%→56%)14%向上。 ○今年度もボランティアお礼の会を児童会主催で開催予定。学校運営協議会にも児童参画。校長の土曜チャレンジスクールへの参加・協力は、6回参加。	A	今年度の取組を継承し、「同じ評価項目」で肯定的評価(よく当てはまる)の割合を上昇させる。 ○今年度以上に児童会の学校運営協議会への参画を目指す。 ○校長の土曜チャレンジへの参加は継続。	・保護者連絡アプリ「がくぷり」をさらに活用し、児童会だより等を載せるなど、親子の会話を増やすきっかけとなるとよい。 ・三世代ふれあいフェスタのイベント、けやきの森まつりなど地域の人と関わる機会として、とてもよい。これらの行事が大人になっても地域と関わるきっかけとなる。
4	<現状> ○365日安全点検実施中。校長による毎朝の校庭見回り及び遊具の視覚・触覚による点検と安全確認を実施。全教職員が五感を使用し、危険箇所発見の視点をもつ。 ○校長による、登校時における3か所の挨拶運動実施中。さらに児童会及び今年度からは教員による挨拶運動も実施。 ○学校課題研修として『「個別最適な学び」と	・安全な生活の実現について児童・教職員が主体的に考えることができる姿勢や知識を育成する。	①計画的な安全点検の確実な実施と施設課等の関係課への迅速な連絡や対応。 ②予算の効果的な活用を生かした教育環境の整備を推進する。また、現金を学校で集金せずに、振り込みで行う。 ③校長による、毎朝の遊具及び校庭の安全確認を実施。児童の目線に立った安全管理・指導を充実させる。	○安全点検の定期的な実施。 ○結果に基づく迅速な補修・補充計画の実践を進めることができたか。 ○教職員の学校評価「施設・設備」に関する肯定的評価(よく当てはまる)の割合(昨年度52%)の8%向上。	○安全点検の組織的・定期的な実施が行われた。 ○迅速な補修・補充計画の実践を進めることができた。 ○教職員の学校評価「施設・設備」に関する肯定的評価(よく当てはまる)の割合(昨年度52%→49%)	B	○校長による、毎朝の遊具及び校庭の安全確認を実施。児童の目線に立った安全管理・指導を充実させる。 ○処理箇所・修理方法について、職員集会等で定期的に教職員に周知を行う。	・学校が安全点検や修理修繕をこまめにやっていることが分かる。情報提供をさらに工夫してほしい。 ・学校課題研修の「大砂土小学校モデル」や読書推進活動等、今年度の取組をさらに深化させてほしい。

	<p>「協働的な学び」の一体的な充実を目指した指導方法の工夫』に向けて、2年目の研修を開始した。</p> <p><課題></p> <p>○本校は開校 152 年目となり、様々な箇所不具合や修繕箇所があるため、優先順位を付け、学校施設整備課に依頼し、予算を使用していく。</p> <p>○学級数の増加はないが、本校の規模で、理科室、図工室、家庭科室は各々1教室しか確保できず、複数学年での授業展開ができない。</p>	<p>・2年目の学校課題研修の充実。</p>	<p>①教頭及び研究主任に指示し、研究授業を核とした、令和7年度の研究計画の立案と実施を行う。</p> <p>②講師として、教育課程指導課より指導主事を招聘し、指導案検討から研究授業まで一貫した指導を依頼する。</p> <p>③今年度の重点を個別最適な学習と協働的な学習の「大砂土小学校モデル」を確立。</p>	<p>○年3回の指導主事を招聘した研究授業を実施できたか。</p> <p>○学校課題研修にて、「大砂土小学校モデル」を確立ができたか。</p>	<p>○学校課題研修において、年3回の指導主事を招聘した研究授業を実施。また、研究授業実施学年以外も公開授業を行った。</p> <p>○2年目の学校課題研修にて、「大砂土小学校モデル」を確立できた。</p>	A	<p>○来年度が学校課題研究最終年となるため、年3回の指導主事を招聘した検証授業を実施する。</p> <p>○大砂土小学校モデルの検証・修正を行い、研究のまとめを行う。</p>	
5	<p><現状></p> <p>○調整時間の確実な把握と振替の実施。ノー残業デーの実施。</p> <p>○毎日の授業観察及び指導を実施。</p> <p>○大砂土小パワーアップ講座を実施している。</p> <p>○高学年での教科担任制の実施、一人一分掌主任の徹底など業務遂行の効率化、情報の共有化を進めている。</p> <p><課題></p> <p>○組織的対応や業務内容の平準化が不十分で偏りが見られる。</p> <p>○経験の少ない教職員も多く、教師の専門性を高め、よい授業のイメージをもつことに困難な様子が見られる。</p>	<p>・研修履歴を活用した対話に基づく受講奨励による教師の学びを促進する。またベテラン教師の指導力の伝承。</p>	<p>①情報端末や各種のアプリケーションの効果的な活用についての時間と機会を確保する。</p> <p>②人事評価を通して、対話に基づく研修受講奨励を行う。</p> <p>③経験の短い教職員に対する、コーチングの視点に立った指導方法の工夫改善研修を充実させる。</p> <p>④2年目の「大砂土小学校パワーアップ講座」において、ベテランの授業術等の伝承を図る。</p>	<p>○対話に基づく研修受講奨励により、教職員が学校を支える力を獲得しようとする取り組みができたか。</p> <p>○コーチングの理論に基づく教育相談や研修の機会を設定し、教員相互のOJTを実践することができたか。</p> <p>○校長による教員採用試験対策講座を5回以上実施。</p> <p>○「大砂土小学校パワーアップ講座」の開催を10回以上。</p>	<p>○自己評価面談にて研修受講奨励を行い、教職員がそれぞれの興味や関心により、夏季研修を中心に受講。レベルアップの機会を得た。</p> <p>○教育相談や生徒指導部会では、どうしても否定的な話が挙がるが、コーチングの理論に基づく肯定的な評価について、校長から指導を行った。教員相互のOJTを実践する教職員が表れてきた。</p> <p>○校長による教員採用試験対策講座を10回以上実施。合格率4/5(80%)</p> <p>○「大砂土小学校パワーアップ講座」の開催は現時点で9回。10回はクリアする予定。</p>	A	<p>○ベテランの教員から経験の短い教員に指導技術の伝承を行うため、「大砂土小学校パワーアップ講座」を引き続き実施する。</p> <p>○管理職によるOJTの一環としてコーチングを行う。</p> <p>○校長による教員採用試験対策講座を継続する。</p>	<p>・教員の時間外労働を管理職が把握し、積極的に調整を与えていることが分かった。</p> <p>・先生自身が元気に働ける環境を学校運営協議会としても応援していきたい。</p>